

松江市 報道機関配布資料

令和8年7月27日

【件名】

松江歴史館ミニ展示「若槻禮次郎が愛した酒」の開催

【開催日程】

■会 期: 令和8(2026)年 7月28日(火)～9月27日(日)

■開館時間: 9:00～17:00

■休 館 日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館)、ただし8月10日は開館

■会 場: 松江歴史館 展示ホール

■観 覧 料: 無料

【内容】

松江市雑賀町出身で島根県初の内閣総理大臣となった若槻禮次郎(1866～1949)は、大変な酒豪であったと語り継がれています。国会での議会答弁で壇上に登った際にはコップに冷水ではなく冷酒が入っていた、ロンドン海軍軍縮会議に参加した際には日本から大量の日本酒を積んでいった等、酒にまつわる真偽不明な武勇伝を数多く残しています。当時の新聞には「若槻さんと酒は餘りにも有名な話」と書かれており、禮次郎本人や妻子への取材では酒について尋ねるほどでした。

本展では、若槻禮次郎愛用の酒器や酒にまつわる書画から禮次郎と酒との関わりを紹介します。

【注目点】

政治家、内閣総理大臣として知られる若槻禮次郎の人間味あふれる酒との付き合い方を感じることができる資料を展示します。

【問い合わせ】

文化スポーツ部 松江歴史館

担当: 新庄

電話: 0852-55-5511

若槻禮次郎が愛した酒

現在の松江市雑賀町出身で島根県初の内閣総理大臣となった^{わかつきれいじろう}若槻禮次郎(1866～1949)は、大変な酒豪だったと語り継がれています。国会での議会答弁で壇上に登る際、傍らのコップに冷水ではなく冷酒が入っていた、首席全権として参加したロンドン海軍軍縮会議には日本酒の樽を船に積んでいった等、酒にまつわる真偽不明な武勇伝を数多く残しています。当時の新聞には「若槻さんと酒は餘りにも有名な話」と書かれており、禮次郎本人や夫人への取材では酒について聞くほどでした。

本展では、若槻禮次郎愛用の酒器や酒にまつわる書画から禮次郎と酒との関わりを紹介します。



若槻禮次郎愛用のグラス

若槻禮次郎が愛用していたワイングラスである。ボウルの中央に若槻家の家紋「九曜紋」がほどこされている。禮次郎はブドウ酒より日本酒を好むと自ら語っているが、グラスを傾けることもあったのだろう。

独特の虹色の色彩やプレート裏のサイン「L. C. T Favrile」から、ルイス・C・ティファニー作のファブリルグラスであることがわかる。

ワイングラス（若槻家所蔵、松江歴史館寄託）



若槻 禮次郎(1866～1949)

松江藩の足輕の次男として、松江の雑賀町に生まれる。家が貧しく松江中学校を中退後、代用教員をする等苦学したのち上京。帝国大学(東京大学)仏法科を首席で卒業。大蔵省へ入省、大蔵次官を務めたのちに政治家に転ずる。総理大臣を二度拝命し、大正15年(1926)第一次、昭和6年(1931)第二次、若槻内閣を組閣した。その後は昭和天皇を^{ほひつ}輔弼する重臣のひとりとして一貫して平和主義を貫いた。



銘柄名になった禮次郎の書「李白」

若槻禮次郎（号 克堂）が松江で酒造業をしていた田中家（現 李白酒造）へ揮ごうした書である。禮次郎は日本酒を特に好み、酒仙と称される唐の詩人李白にちなみ「李白」と記した。田中家はこの書「李白」を銘柄名とし、現在でも日本酒「李白」のラベルに、禮次郎の「李白」の文字が使用されている。

扁額「李白」（若槻禮次郎書、田中家所蔵）



盃を片手に上機嫌な禮次郎

第二次若槻内閣で司法大臣となった渡邊千冬（無劍）が禅語「^{わたなべ ちふゆ}溪声長広舌 ^{きたざわらくてん}山色清浄身」と書き、その下に風刺画家の北沢樂天が盃を片手に上機嫌な若槻禮次郎を描く。樂天が酔った禮次郎を見て描いたものか、禮次郎と酒の風評を基に描いたものかは不明。

扇面「若槻禮次郎像」（渡邊千冬書、北沢樂天画、松江歴史館所蔵）

新聞紙上で語られた禮次郎と酒の関係

（若槻徳子夫人に聞く）若槻さんと酒はあまりにも有名な話だからさぞ酒についても苦労のある事だろうと訊いて見ると案外、酒については面倒の要らぬ人らしい。「主人も貴方に申しています様に酒を選び好みする訳ではなし肴なんかも、世間の酒飲みの方々が好かれるウニだとか、カラスミシュトウ、塩辛なんて特殊なものを好むというものでもありません。只四季折々の物を喜びます。別にズラッと並べる必要もなし。酌は自分で熱燗をコップでグツグツとやっています。コップなんかで飲みますから大酒飲みの様にいわれますが、量は極めて少ないのです。湯豆腐は極めて好く様です。」

昭和8年冬新聞社名不詳「婦人に聞く-十二年の浪人生活」